浜松
南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
TEL(053)441－1486㈹
FAX(053)442－0148

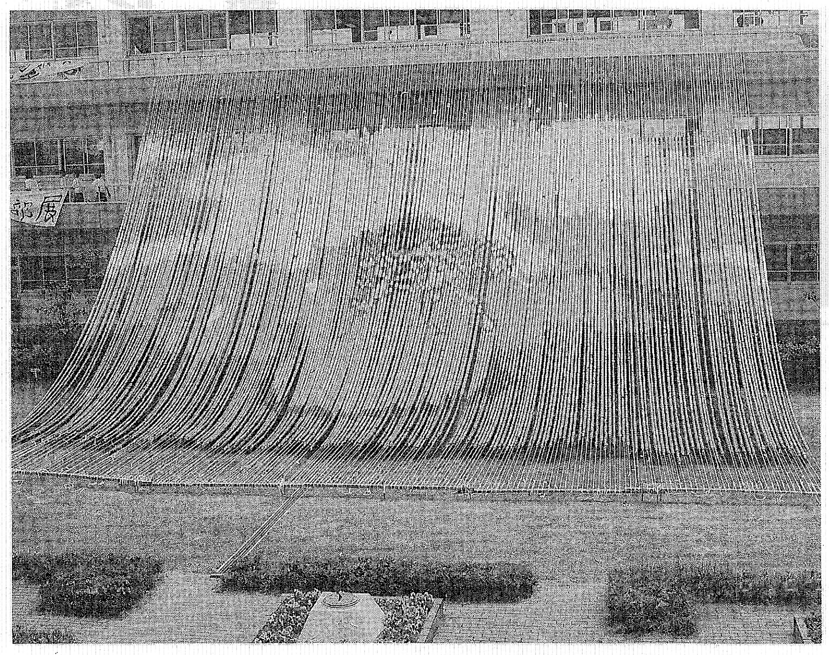
印刷
富士印刷株式会社

第三十二回

波濤祭

～新航海時代～

平成八年、六月一日、二日、二〇〇二年ワールドカップ日韓共催決定と同日に、我が高最大のビックイベント第三十二回波濤祭が開催された。
今回の波濤祭をおおいに盛り上げてくれた役員、HR、クラブの活躍ぶりを振り返ってみよう。



努力の結晶

今年の空き缶壁画は、13、15、19、10HRの4クラスで制作しました。この壁画には、およそ二万個の缶を使い、描いたのは水の上に浮かんでいる靴の絵です。全校生徒に空き缶を持ってきてもらうように呼びかけたのですが、なかなか集まらずに困りました。皆さんには伝わらなかったのでしょうか。また、袋の中に缶以外のゴミが入っていた時には、なぜ僕達がこんなことをやらなければいけないのかと思ったこともありました。空き缶洗いでは、手がべとべとになったりしました。また缶にひもを通すための穴を開けるのは、先がとがった金属でやりましたが、缶の数が多くて大変でした。その中からひもを缶に通す時には、早く簡単に作業を進めるために階段で、缶をひもに流すような工夫も生まれました。遅いときには七時半ごろまでかかり途中でいやになるときがあったり、初め絵に見えるかどうか心配していたりしたのですが、完成したら絵に見えて良かったです。皆さんはどう見えましたか。

空き缶壁画は苦労が多かったですが、その分充実感を味わうことができました。僕たちの苦労、努力はこの空き缶壁画に伝わったでしょう。来年はもっとうまくできるでしょうか。期待したいと思います。

最善をつくそう

KING OF 波濤祭

37HR

まず最初の感想は、「信じられない！」でした。大波濤賞だけでなく、HR展の部、Tシャツコンテストで共に一位、さらに波濤賞も五位と、四つも賞をとってしまい、本当に驚きました。HR展の準備のときも、みんなの努力がこういう形でむくわれて本当によかったと思いました。

HR展の準備で、一番たいへんだったのは、『ゾウのすべり台』でした。これは、先生方から危険だと言われて、すべる傾斜の角度を変えたり、安全面での対策を考え直したりして、結局、波濤祭の当日までに終わらせることができませんでした。でも、そのおかげでHR展は大成功に終わりました。忙しすぎて、あまり他のHR展、クラブ展を見に行けなかったのが残念だったけど、とてもいい思い出になりました。

半年間に得た貴重なもの

前期生徒会長　斉藤元之㉚

一九九六年一月七日、この時の認証式をもって、平成八年度前期会長に任命されました。そして、六月三十日までの間、約半年にわたって、仕事をしてきました。この長いような短いような半年間に、僕はいくつかのかけがえのないものを手に入れました。

そのうちの一つが、生徒会に入る前には味わえなかった、新鮮な体験です。行事を運営したり、常時活動を行ったりして、その中からいろいろと貴重なことを学ぶことができました。

それ以上に、数多くの、個性あふれる、貴重な仲間達と出会えた事が、かけがえのないことです。生徒会の執行部や、波濤祭実行委員、そして代議員会の役員のみんなまで、おそらく生徒会長をしなければ出会えなかっただろう、と思います。

まだまだきりがありませんが、これだけかけがえのないものを手に入れることができたことを、本当にありがたく思います。そして、この半年間を忘れることなく、のちの人生をおくっていきたいです。

クラブ展優勝

「書道部革命」

今年、ついに波濤祭、クラブ展の部で優勝する事ができました。今年も書道部は、波濤祭のシンボルともいえる空き缶壁画にかくれながらも一生懸命がんばりました。

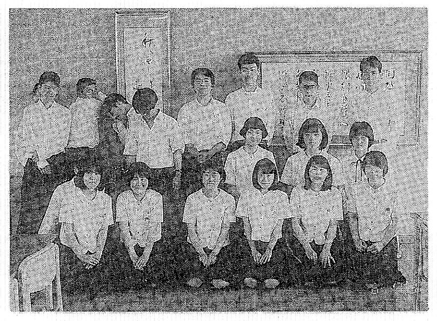
今年の書道部のテーマは、『書道部革命』でした。このテーマは今年新しく来られた内山先生、そして何よりも今年入部した多くの一年生と共に新しい書道部をつくっていこうという事で決めたテーマでした。

文化祭当日に、書道部の展示を見にこられた一人のおばあさんに「今年は作品の数が多いねえ。がんばったねえ…。」という感想を聞いたときには大変うれしかったです。この時に、色々な方が見に来てくださっていたのだなあと思いました。一生懸命努力したかいがありました。

文化祭もすばらしい結果に終わり次期部長も決まり、僕としてはほっとしたという感じです。

最後に書道部員に一言、「来年もみんなで協力してすばらしい展示を完成させて下さい。そしてまた優勝してみせて下さい。（トトロの折り方を後々まで伝授して下さい）」

そしてみなさんへ、毎週楽しくやっている書道部をこれからもよろしくお願いします。



今年も燃えた波濤祭

実行委員長　竹上　肇㉟

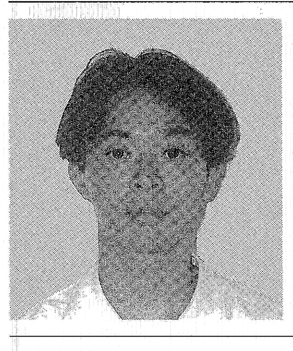
今年の第三十二回波濤祭はどうでしたか?中間テストが終わってから、実際に準備できた日数は一週間程度だったわけですが、準備時間が短かったからこそ燃えたでしょうし、クラスや部活の団結も深まったと思います。

僕が今まで経験した第三十回、三十一回という二つの波濤祭も確かにいいものだったと思い出せますが、今回の三十二回の波濤祭もまた、それに劣らずいいものでした。なにしろ今年はどの展示、イベントも盛りあがっていました。例年ふるわなかった中夜祭が盛況だったのもうれしい結果でした。

今年の賞の多くは盛りあがったHRがもらったという感がありますが、閉祭式でも言ったように、どこの展示の得票も僅差でした。静かな部展は来客者の人気が高かったですし、一年生のうけもった部門に対する評価もよかったです。

ところで、みなさんは生徒会や僕ら実行委員に対してどのようなイメージをもっているでしょうか?「（生徒会や実行委員やる人は）かなり変わっていて、ちょっと自分達とはちがう人」なんてのが一般的なものだと思います。まぁ、確かに個性の強い人ばかりですが。僕は実行委員として三回の波濤祭をやりましたが、どの波濤祭でも、普通に参加したのでは得られない思い出と、たくさんの仲間を手にすることができました。こうやって文にしてしまうのは簡単だけど、いろいろなコトがあって。一・二年生はぜひ一回は、実行委員をやってみて下さい。

最後に個人的なコトですが、実行委員のみんな、半年間ご苦労様でした。ありがとう。



最後に一言

今年の波濤祭はどうでしたか。新聞部では今年の波濤祭の盛り上がりを受けて、一面で波濤祭特集を組んでみました。HR展、クラブ展、イベント、空き缶壁画などは、大成功といえるできばえだったと思います。

一年生にとっては、初めての波濤祭で、右も左も分からないまま、手さぐりのままの準備は、とても大変だったと思います。しかし完成した時の感動はどうだったでしょうか。精一杯頑張った人には、精一杯の感動があったことと思います。

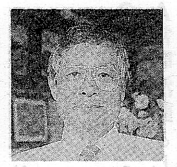
初めてHR展をやった二年生も最後のHR展となった三年生も満足のいく作品ができたでしょうか。例年と同じくとても盛り上がりましたが、勢いだけで押し切ってしまい、一般客が入りにくい作品が多かったような気がします。来年は新たな趣向をこらした作品が登場することを期待します。このような期待を一・二年生にたくして、波濤祭特集を終りたいと思います。

新任紹介

1 自慢・特技・趣味
2 前任校
3 担当教科
4 好きな有名人
5 南高の第一印象
6 将来の夢

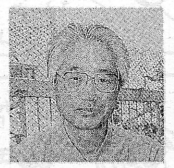
小野光政 教頭先生

1 苦手な学習を努力して人並みにすることができたという自らの経験があるので、生徒の誰にでも希望をもって接しやすい。
2 静岡県総合教育センター
3 理科（化学）
4 河合隼雄、野村克也
5 静かな落ち着いた学校。熱心な先生方とそれに応える生徒達等という構えるべき基本が整っていると感じました。
6 本校で関わった生徒達が将来社会の各方面で活躍し尊敬される人々になってくれること。



亀　昭孝 先生

1 カメの小さな置物の収集
2 浜松北高校
3 理科（化学）
4 本田宗一郎
5 生徒諸君が素直なこと。校舎内がきれいなこと。
6 豪華な客船に乗って、ゆっくりと世界一周をしてみたい。

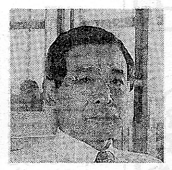


折金紀男 先生

1 一年に50回は映画館に行くこと。
2 湖東高校
3 日本史・政治・経済
4 荻生徂徠
5 太平洋の香りがする。
6 もう一度大学に入学すること。

加治佐 眞 先生

1 三十歳で覚えた鉄棒の大車輪を五十一歳までやったこと
2 浜名高校
3 世界史と政経
4 古館イチロー
5 皆さん大変真面目で、漢字をよく読める。
6 カイロプラクティックのクリニックを聞くこと。

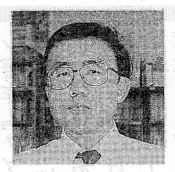


竹内　晃 先生

1 登山・音楽鑑賞
2 二俣高校
3 国語
4 特になし
5 素直で真面目である。
6 里山の南稜地に山小屋を建てること。

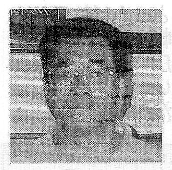
滝川啓子 先生

1 自慢は五才の息子、特技は……特になし、趣味は歌を歌うこと、ファッション、グルメ、手芸……。
2 気賀高校
3 英語
4 山崎努
5 真面目
6 将来なんてあるかな。老後（?）はstory tellingの勉強をしたい。



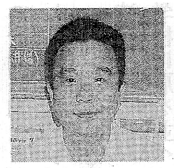
鵜原右次 先生

1 特技は書道　趣味は山歩き
2 浜松江之島高校
3 英語
4 宮沢賢治
5 あいさつができる生徒が多い。（礼儀正しい。）
6 外国へ行って日本文化を紹介したい。



武藤良夫 先生

1 麻雀・ドライブ・手芸・鮎釣り・囲碁（三段）
2 春野高校
3 保健体育
4 藤沢秀行（プロ棋士）・長嶋茂雄
5 クールな生徒が多い。
6 健康で静かな生活



中村尚介 先生

1 読書（T・クランシー・フリーマントル等）
2 浜松北高
3 英語
4 特になし
5 授業中の顔の表情が乏しい。

渡辺喜恵 先生

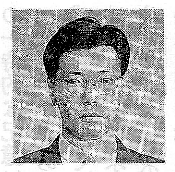
1 趣味は休日台所の換気扇を洗うことです。
2 気賀高校
3 国語
4 大江健三郎と所ジョージ
5 中庭が清々しく感じました。
6 きちんと年をとりたいと思います。

上野名都子 先生

1 趣味は洋服作りやお菓子作り。（一時期はお菓子を作ってばかりで、すっかりデブになってしまいました。）
2 浜松城南高校（小さくてのんびりとした学校です）。
3 地理公民（今年は世界史と政治経済を担当しています。）
4 特になし
5 おとなしいけれど真面目にコツコツと努力する生徒が多そう…かな?
将来は…早く子育てと亭主の世話（?）から解放されて、世界中を旅行したい。そして広い草原でのんびりといつまでも座っていたい、と考えています。

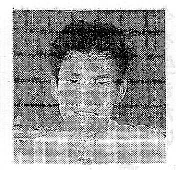
小泉正嗣 先生

1 釣り。二十代はサーモンやカジキを求めて、カナダ、アメリカにも行きました。
2 浜北市立北浜中学校
3 地歴科　日本史・地理・倫理
4 ショーン・コネリー
演技の上手な映画俳優が大好きです。学生時代、一週間六本程映画を見ていた程、映画好きのため。
5 真面目な生徒が多いと思いましたが、元気がないというか暗いというか、もっと何事にも手を抜かず一生懸命行っていけばもっと明るくなるだろうに、と思いました。



西沢安彦 先生

1 （趣味）テニス・スキー・パチンコ
2 磐田南高校
3 数学
4 特になし
5 もっと大きな声で挨拶をしよう。
6 あるけどこの紙面では語れない。



内山隆宏 先生

1 独り旅とスケッチ
旅行に出掛けるときは、いつも小さなスケッチブックと絵の具を持って行きます。
3 書道
4 山下清（画家）
放浪しながら絵を描くという彼の奔放な生き方にずっと憧れていました。
5 学校が奇麗
四十年も経つ学校がこれほど奇麗なのに驚きました。聞いたところ、生徒のつかい方が丁寧だからだそうです。
6 モルジブの孤島を買い取り、そこに原生するヤシの木にハンモックを掛けて眠ること、いつか試みたいと思います。

石川綾子 先生

1 自慢することは別になし。特技はエレクトーン演奏（幼稚園から高三までやっていました。）趣味は映画鑑賞・スポーツ
2 新任です。
3 家庭科
4 特にいません。
5 男子生徒がいる！（ずっと女子校だったので）
6 すてきな男性と結婚して、幸せな家庭を築くこと。

鈴木祥允 先生

1 アマゾンの探検。写真
2 袋井高校
3 理科（生物）
4 詩人、ウィリアム・ワーズワス
5 砂丘の松林と広大なネギ畑…豊かな自然に恵まれた学舎であり、生徒諸君の真摯な態度に感銘した。
6 世界の自然遺産を訪ねてみたい。

小野田恵美 先生

1 俳句・書道
2 浜松市立高校　興誠高校
3 家庭科
4 司馬遼太郎
5 おだやかで、暖かい感じがします。

部活動報告

●野球
春季県西部大会
二回戦　8—5浜北
三回戦　9—2二俣
準決勝　3—7掛川西

●サッカー
総体西部大会
一回戦　2—1藤枝明誠
二回戦　0—2沼津学園

●男子バスケット
総体西部大会
一回戦　147—10国際海洋
二回戦　77—52常葉菊川
三回戦　44—107興誠
敗者復活　95—49城北
84—85浜松北
県総体
30—90静岡東

●女子バスケット
インターハイ西部大会　優勝
県総体
一回戦　58—54加藤学園
二回戦　59—39沼津西
三回戦　49—53沼津学園

●男子テニス
総体西部大会
シングルス　鎌田4位
県総体
団体ベスト8

●女子テニス
総体西部大会
シングルス　渥美4位
県総体
団体ベスト16

●男子バレー
県総体
一回戦　2—0稲
二回戦　1—2袋井

●女子バレー
総体西部予選
二回戦　0—2江之島

●剣道
総体西部大会
男子
一回戦　1—3浜松北
女子
一回戦　3—1常葉菊川
二回戦　0—2浜松市立
11位で県大会出場

●女子ソフト
総体西部大会
3—10　袋井商
（6回コールド）
敗者復活1回戦
7—6　浜松東
県総体
一回戦　25—0　東海
（5回コールド）
二回戦　1—20　沼津学園
（5回コールド）

●水泳
浜名湾水泳大会
四百m自由入賞
28HR　忠内芳光

●柔道
県総体（団体）
一回戦　3—2　清水東
二回戦　3—0　田方農
三回戦　0—3　浜商

●陸上
西部陸上競技選手権大会
八百m　佐藤朋弥　2位
湯朝智裕　6位
三千mSC藤田雅也3位
道順稔浩5位
百十mH野島茂一郎5位
四百mH野島茂一郎5位
総体県西部予選
四百mH野島茂一郎2位
湯朝智裕　3位
百十mH佐藤朋弥　4位
百m　水谷恵理子6位
三千m障害岩城秀康
道順稔広
県大会出場
県総体
四百mH野島茂一郎4位
東海大会出場
八百m　佐藤朋弥　決勝
湯朝智裕　4位
東海大会出場
三千SC岩城秀康　決勝
道順稔浩　決勝

●卓球
県総体男子ダブルス
奥村
片山　0—2　高橋
村瀬　下田北
井上
鈴木　1—2　名本
村上　清商
団体　0—3　日大三島

●放送
西部放送コンテスト
アナウンス
桐谷　12位　1年
佐久間　16位　1年
杉山　22位　2年
朗読
内山　4位　2年
村瀬　8位　3年
宍井　12位　2年
野嶋　24位　1年

新高校生の声
～我が新しき母校に寄せる想い～

12HR　石井教晶

私の南高校の最初の印象は、昔の南高校とは違うということです。父に聞いた話だと、南高校はのんびりしているということでした。しかし、実際に入学して、そんなことは全くないと思いました。先生方も先輩方もとても熱心で、今では、今では西高校に負けていないと聞きました。

私自身、高校では、予習復習をしっかりやろうと考えていました。しかし、まだ甘く中間テストでは、見るも無残な結果となりました。この悔しさをバネに毎日を頑張っていきたいと思っています。

14HR　波多野みか

南高に入学し、授業のペースが、中学の時とは比べものにならないほどはやいことに驚きました。そのため、予習復習の大切さを改めて実感しました。毎日部活で帰りが遅くなりますが、予習復習をしっかりやり、次の日の授業にのぞみたいと思います。また、南高は、先生と生徒の関係がよく、質問に行くと、どの先生もしっかり教えて下さり、理解できないところがあっても気軽に先生の所に質問しに行けるので、とてもいい学校だと思います。

15HR　井出早裕里

南校に入学しての印象は、「古い」学校だな、ということです。でも今は古いわりには「きれい」な学校だと感じています。生徒については、みんなまじめで優秀な人たちに見えました。

波濤祭や応援練習など、いくつかの行事を経験して、高校生活についても少しずつわかってきたように思います。クラスの人たちも、はじめはみんな、優等生ばかりだと思っていましたが、個性的で伸び伸びとした人が多いなあと思うようになりました。

17HR　鈴木美絵子

私は、南高校に入って一番よかったと思ったことは、良い友達に会えたことです。クラスメイトも良い人ばかりで、すぐにクラスに溶け込むことができました。

次に、高校といえば勉強も大変になり、毎日の授業も進むのが早くて、私はついていくことで精一杯です。しかし、先生方は質問すると、親切に答えてくださるため、授業でわからなくても補うことができます。だからこれからも南高で頑張って自分を伸ばしていきたいと思います。

18HR　久米里沙

南高に入学して感じたことは、学校中活気に満ちあふれているということです。それは、文化祭〝波涛祭〟で見ることができました。みんなが準備から団結し、とても盛り上がりました。このような活気は勉強面でも見られます。みんなそれぞれ目標を持って勉強しています。先生方は、生徒一人一人を信頼してくれ、生徒の意志を尊重してくれます。だから、のびのびと勉強ができます。こんな恵まれた環境の中で今は、とても充実した毎日を送っています。

10HR　織部聖子

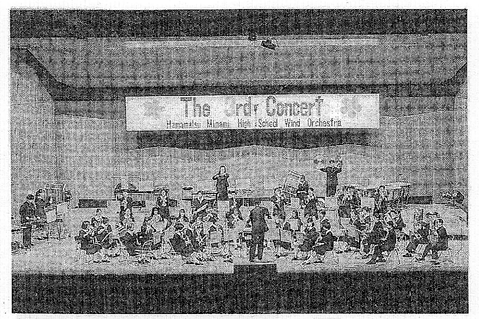
南高校に入学して中学とは全く違う生活が訪れた。高校には中学で楽しめる全ての事が倍の楽しみで味わえる。部活、友情、恋愛、行事、数えきれないほどの幸せの中に待ちかまえている勉強。楽な事ばかりの高校生活を送りたいのなら他の学校へ行けばいい。苦しい努力をしても自分の実力を伸ばしたい人にこそ南高校は適している。大した努力もせず南高校に入学した生徒は必ず途中で挫折してしまう。『日々の努力を怠らない』これが南高校に入学して分かった中学と高校の最も違う点だ。

熱気あふれる演奏
吹奏楽部第三回定期演奏会

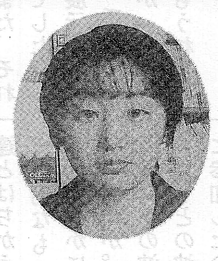
四月二十八日(日)、浜松市教育文化会館で、本校吹奏楽部によるコンサートが行われた。本校生徒の他にも中学生や南高OB、他校吹奏楽部員を始め、会場は聴衆でいっぱいであった。

第一ステージでは、平野満彦先生の独唱が加わったシューベルトの「魔王」を始めとするクラシックの曲、第二ステージは劇と音楽の入り混じった演奏、第三ステージは広い年齢層にわたって楽しむことができるポピュラー・ステージでした。工夫された構成と演奏に会場全体から盛大な拍手がおくられていた。

司会のFMハローの村松あゆみさんのインタビューを受けた部長の村木成輝さんの感想は「まあまあでした」の一言だったが、本当のところは「すばらしいできだった」と確信できる演奏だったと、会場にいた誰もが思ったことだろう。今年聞き逃してしまったあなた、来年こそ行ってみてはどうでしょうか。きっととてもよい時が過ごせるでしょう。


The 3rd Concert
Hamamatsu Minami High School Wind Orchestra

人を語る
教師になったきっかけとバレー部での思い出



石川綾子先生

―家庭科の教師になったきっかけは？

小さい頃から裁縫などが好きだったし、あと中学、高校時代はすごくファッションに興味があったので、大学は家政学部に入りました。

そして、教師になろうと思ったのは、両親と兄が教師をやっているので、子供の頃からそういう姿を見ていたせいもあります。

また、自分の好きなことを続けながら仕事ができるという点で家庭科の教師になろうと思いました。

―先生はバレーボールをやっていたと聞きましたが、バレーボールをやっていた時の思い出は？

バレーは中学三年間と大学の間ずっとやっていました。本当は高校もやりたかったんだけれど、私の高校はバレー部がなかったので、バレーをやることができませんでした。中学のバレーでは毎日練習ばかりで休みもほとんどなく、三年間でとにかく疲れました。あと顧問がとても厳しい先生だったので、練習の時や試合でミスした時など怖かったのを覚えています。けれども、「ふり返ってみるとバレーが好きだったので続けてよかった」と思いました。あと精神的にも強くなれたと思うので、これもよかったと思います。大学時代のバレーボールはサークル活動なので、中学の時みたいに一生懸命、大会に向けてやるというものではありませんでした。本当にバレーボールが好きな人達だけが集まり楽しくやっていたという感じでした。

―大学では、どんなことをしていましたか。

一応東京の大学に行っていたので、東京という場所を生かし、有名な絵を見たり、芸術鑑賞をしたりしました。そして、地方ではあまり機会のない各世界の美術展やオーケストラのコンサートなどを四年間のうちに、とにかく見に行きました。その他には、大学時代で思い出に残っていることは、たくさんの友達をつくることができたということです。大学時代の友達には共通のわかりあえる部分があるので、一生つき合っていきたいと思う友達がたくさんできました。それが大学時代の思い出です。

―南高の生徒の印象はどうですか。また、直すとよいところはありますか。

印象として、最初に思ったことは、自分は今まで西遠に六年間通い、大学も女子大に通っていたので学校に男子生徒がいることにとまどい、今までとは違う環境に来たのだと実感しました。それからこの学校の生徒はおとなしい生徒が多いのか、登下校や廊下などであってもあいさつをしない生徒が多いことを感じました。あいさつは、生活して行く中でとても大切なことです。すれちがったら「おはよう」などのあいさつができるような生徒になってほしいと感じました。

石川先生、おいそがしい中インタビューに真剣に答えてくださってありがとうございました。

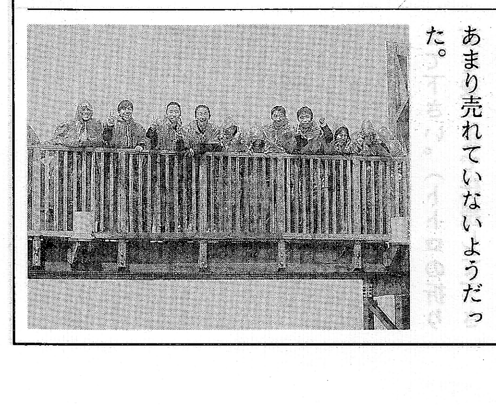
学校を離れての一日
――春の遠足

四月二十四日（水）、21・22・24・26・28・29HRは、名古屋港水族館へ行った。呼びものは人工的に雪を降らせ、南極そのままの環境を再現したペンギン水槽。水中を力強く泳ぎまわるペンギンの姿には思わず目をみはる。極寒の地でたくましく生き抜く姿、いながらにして極地の臨場感とが味わえた。23HRは、東山動物園へ行った。動物が好きな人も嫌いな人も大好きになった。20HRの浜北森林公園はとても空気が澄んでいて、鳥が鳴いていてとても心地よかった。アスレチックで汗を流し、クラスの仲もより一層深まった。23HRは、大井川の河原でのバーベキューであった。SLに乗りたかったけど時間があわなくて今回は乗れなくて、今回は残念だった。普段とは違う意外な一面を見ることができた。

長嶋スパーランド　報告

三年生では32・38・30HRが、長嶋スパーランドに行った。遠足の目的地の中で最も遠い場所ということで、8時30分に浜松駅を出発した。

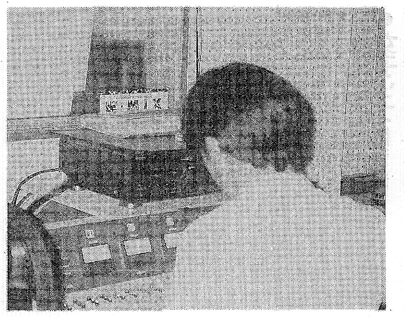
長嶋に着いた時は予定より一時間程遅れていたが、平日なので一般客が余り多くなく、ほとんど全ての乗り物に乗ることができた。そして、それらの乗り物はどれもスリルがありおもしろいものだった。その中でも特に良かったのは、長嶋スパーランドのメインであるホワイトサイクロンだ。この乗り物は最初にすべてこの地域が見渡せるような高さまで登り、一瞬止まったと思うと、猛スピードで急降下してそのまま5分程約100㎞のスピードで走り続けるのだ。そして、乗り終わった後すぐに出口の所で急降下中に撮られた一人一人の写真が売り出されていたが、どの顔も◎ぶさいくで○ひどくて見られたものではなかったのであまり売れていないようだった。



夏＝暑さ＝汗
南高クラブ活動最前線

今年も夏到来。今回、アトランタで開かれるオリンピックでは、多くの高校生が出場。今、高校生が熱い。本校でも、四〇ものクラブが活動中である。その中から三クラブに注目してみた。

放送部



情報化社会といわれている現代。我々、南高生に多くの情報を与えてくれる放送部。今、オン・エアー中の昼の放送を中心に取材してみた。

Qベストテンは何を参考にしているんですか。

A毎週月曜日に発売されている「オリコンウィーク・ザ・イチバン」のランキングをもとにしています。水曜日の番組は、原稿作りから編集までだいぶ時間がかかります。

Q曲の選考の基準は何ですか。

A主に、リクエストボックスのリクエストを流しています。他には、ベストテン外の注目曲や、放送部員イチオシのアーティストの曲などです。

Q日常の活動は？

A常時活動として、朝の放送、昼の放送があります。昼の放送には「Middle of the road」という名前がついていて、曜日ごとにコーナーがあります。金曜日は「〇〇特集」という特集を組んでいます。

Q最後に一言。

A皆さんが毎日何気なく聞いている昼の放送。私たち放送部がお昼のひと時を少しでも楽しくしようと日々頑張っています。

最後に顧問の谷中先生から一言。

放送部の活動の中で朗読・アナウンス部門でのコンテストへの取り組みはかなり成果が得られる様になっては大変うれしいことです。しかし、番組制作においては低調で残念でなりません。高校生の時は多感の時と言われ、頭が柔軟で発想の豊かなものが浮かんでくる時です。ぜひ、その能力を番組制作に生かして欲しいと思っています。

吹奏楽部

吹奏楽部では、毎日三時四十分から約二時間練習をしています。演奏会や大会が近づくと時間を延長して練習をします。時々外で練習しているのはもっと大きな音を、もっといい音を、という目的のためです。部員が二十人と少ないのでこの練習が特に必要となります。「きつい」といわれがちな部活ですが、練習の大変さは演奏会や大会になれば、喜び、感動、満足感などで忘れてしまいます。

今年で三回目を迎えた定期演奏会は、今までにない盛り上がりを見せました。客足もよく、また、曲の仕上がりも満足できるものになりました。次回の定期演奏会は平成九年四月二十九日にアクト中ホールで行います。

顧問の阿部先生は英語の先生なので、曲名の発音にとてもこだわります。指導力もとてもあります。また、平野先生は、歌が専門ということもあって演奏会などで歌を歌って下さいます。先生の歌は絶品です。

今の目標は十月に行われる第九回全日本マーチングフェスティバルの静岡県大会で、昨年に昨年に続き東海大会に出場することです。また、一月に行われるアンサンブルコンテストには本吹奏楽部から二団体出場し、二団体とも県大会出場することです。

最後に阿部先生から話をしていただきました。

本校吹奏楽部は昭和63年野球部と同時に作られました。前身はオーケストラ部として活動しており、楽譜や備品にその名前が残っており、活動の一端を知ることができ懐かしさを覚えます。

平成6年に念願の第1回の演奏会を開き、ようやく他の学校に肩を並べることができるようになりました。

現在の活動は各種のコンクールの他に、プロムナードコンサート、四校合同演奏会などの演奏会や、吹奏楽野外演奏会などのマーチング、個人を伸ばすアンサンブルなど幅広い活動をしています。

野球部

今年、創部十年目を迎えるわが校野球部は、後藤潤一主将(三年)を中心に守備力を重視した練習を行ってきました。

春季の地区大会では準決勝進出し、県大会にも出場しましたが一回戦で清商に破れました。その悔しさをバネにして夏の大会に挑みます。野田監督は、「春の大会での経験をいかして夏の大会では上位を目指したい。」と抱負を述べてくださいました。昨年は初戦で敗退しましたが、今年は例年以上に練習にも熱が入り期待がもてそうです。

「チーム一丸となって、がんばります。」

優勝目ざしてガンバレ!!

活発な意見が飛び交った読書会

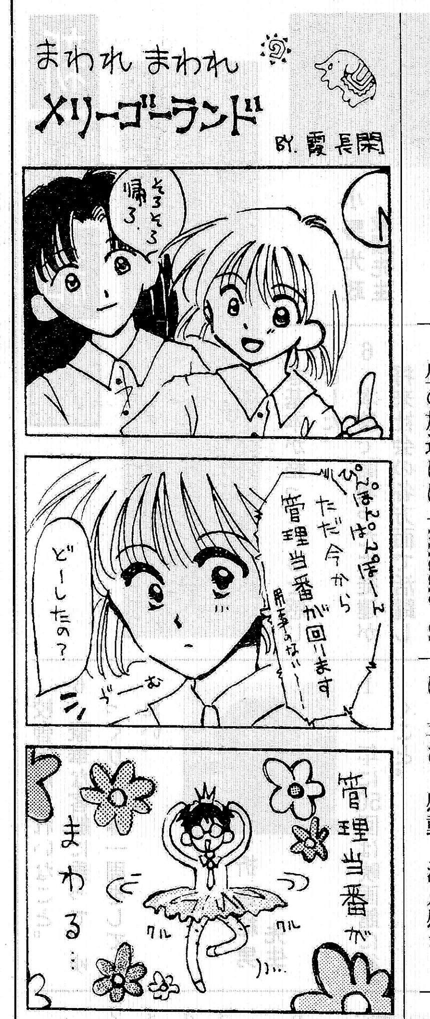
六月二十日今年度はじめての読書会が行われた。各クラスの図書委員をはじめ、読書好きの人達が集まってあらかじめ決められていた題材についての意見を交換しあった。

この日の題材は、宮本輝著の「螢川」の終章。「螢の光が消えるというのは別れ、光る部分は人間の生きざまを表す。」「螢の様に、生まれては消える命のあっけなさ。」、「過去は過去で、今を生きたい。」などという前向きな意見が出た。機会があったらぜひこの本を読んでみてほしい。

今回の読書会について、図書委員長の藤谷一成君（25）に感想を聞いてみた。

「活発な意見が多くでて、素直にホッとしました。司会者の僕が大ボケかましてまわりの雰囲気をぶちこわしたことを参加者の皆さんにおわびいたします。もっと多くのみなさんに、本に親しんでもらいたいと思います。」

この日の参加者は約四十名で一学期に一回行われるこの読書会。次回は二学期、十一月に行われる。興味を持った人は、ぜひ次回、参加してみてはいかがだろうか。


まわれ まわれ
メリーゴーランド
BY. 霞長閑
そろそろ帰ろ
ぴんぽんぱんぽーん
ただ今から管理当番が回ります
用事のない人…
どーしたの？
ズーむ
管理当番が
まわる…
クル
クル
ふふふふふ
なにっ？
何があったの！？
くすっ

論説
豊富な知識　ない常識

「常識」と「知識」とでは、どちらが人間にとって重要なものだろうか。

イングランドの哲学者で、政治家でもあったF・ベーコン著作『ノブム・オルガヌム』の中に「知は力なり」という言葉がある。この言葉を聞いただけでは、知識＝得と誤解してしまう人も多いだろう。しかし、彼の生きたルネサンスという歴史的背景からみて、次のように解釈してる本がある。

知識は、前時代のように、それ自体が目的ではなく、あくまでも仕事への有効な手段である。知識の価値は、人間がどんな仕事をするかによって決まる。知は人の願いを実現する力である。

「キリギリス」は何と鳴くかという質問をある先生が授業中にした。一昔前の人なら、誰でも知っている「常識」である。しかし、その質問に答えられた生徒は一人もいなかった。つまり、昔の「常識」は、今では、知っているとすごいという「知識」になってしまったのである。

その大きな原因の一つが、日本の教育制度だと思われる。近年では、日本全体の教育水準が上がり、多くの人が大学進学を目指すようになった。そのため、多くの「知識」が必要となった。昔の先生は、授業中に、人間のモラル・在り方など、いろいろな話しをしてくれたという。今は教育はあまりに定型的でありすぎると思う。

生徒も生徒で、講義中の内容やノートの内容をただ丸暗記するだけにとどまっている。丸暗記した事項が「知識」だと勘違いしている人が多い。それは、テストなどある目的を果たすための一時的な記憶にすぎない。

数学を例にあげても、公式をただ覚えて利用するだけだ。面積を求め方の重要公式に「ヘロンの公式」といわれるものがある。利用することはできても、証明できる人は数少ないだろう。

テレビのクイズ番組で一般の人に恥をさらしてもらうという高視聴率番組がある。そこにアンサーとして、東大生が出演した。驚いたことに、世間で「常識」と思われているものを知らない。

いくら知識量が多くても、一般社会に会った生き方ができなかったら、その人自身の価値は落ちてしまうだろう。

「常識」と「知識」の間に線を引くことは難しい。教育水準がどんどん上がっていけば、「知識」も「常識」となる。しかし、その反面、「常識」が「知識」となってしまうこともあり得る。

現在の日本の中等教育の就学率は九七％、世界一で、日本人一人一人の知識量も、他国と比較すれば豊富である。確かに、日本人でこの「知識」を有効な手段として「利用」している人は多い。しかし、一方で「他人を傷つけてはいけない」などの根本的な常識（モラル）を日本人から奪ったのも、日本の知識を過剰に重視する社会によるものではないか。